

土地を 知るには 食から

2022年
2月5日 土

13:30 ~ 16:00 参加費無料

会場：道の駅 からむし織の里しょうわ
来場参加 15名限定、要申込

オンライン参加 50名、要申込

- 講師 森枝卓士氏
(写真家・ジャーナリスト・大正大学客員教授)
赤坂憲雄氏
(民俗学者・学習院大学教授・元福島県立博物館長)
- 報告 塚本麻衣子
(福島県立博物館学芸員・
ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)
松尾悠亮氏
(昭和村からむし工芸博物館学芸員)

お申し込み方法

メール general-museum@fcs.ed.jp もしくは お電話 0242-28-6000 で

①参加者氏名 ②電話番号 ③e-mail アドレス ④来場参加かオンライン参加か
をお知らせの上、お申込みください。

13:30 ~ 13:35

主催者挨拶・趣旨説明

13:35 ~ 13:55

報告① 塚本麻衣子

アートワークショップ

「海幸山幸の道」から見えてきたこと

13:55 ~ 14:15

報告② 松尾悠亮氏

昭和村の明治・昭和時代の婚礼料理再現について

14:20 ~ 15:00

講演 森枝卓士氏

「食を訪ねて～食文化リサーチの醍醐味」

15:00 ~ 16:00

対談 森枝卓士氏 × 赤坂憲雄氏

「土地を知るには食から」

森枝卓士 Morieda Takashi

1955年、熊本県水俣市生まれ。写真家。ジャーナリスト。大正大学客員教授。早稲田大学などでも食文化を講じる。高校のころ、アメリカ人写真家ユージン・スミスと出会い、写真家を志す。国際基督教大学で文化人類学を学び、以後、アジアをはじめ、世界各地を歩き、写真、文章を新聞、雑誌に発表。おもな著書に、『食の冒険地図』、『世界の食事おもしろ図鑑一食べて、歩いて、見た食文化』、『考える胃袋一食文化探検紀行』、『料理することーその変容と社会性』、『食べもの記』、『手で食べる？』などがある。レシピ集なども執筆。

食
から見える土地
のあれこれ

その土地の気候風土に育まれて得られる食材は、その土地そのものです。

そしてそれら土地の恵みの良さを引き出しながら作られた料理は、その土地とそこで暮らす人の個性を生み出すものです。

私たちの身体と心は、その土地から生まれる食べ物でできています。その土地を知ろうと思ったら、食を調べることに。

本ラウンドテーブルは、日本各地はもとより世界各地で食のリサーチを行いながら、その土地の暮らしや人を調べてこられた写真家でジャーナリストの森枝卓士さんと、日本各地、特に近年は奥会津のリサーチを重ねて土地の姿を丁寧に捉えようとしている民俗学者の赤坂憲雄さんをお招きし、食のリサーチの意義と醍醐味をお聞きます。

また、LMN実行委員会が今年行ったアートワークショップ「海幸山幸の道」と昭和村が今年行った明治時代と昭和時代の婚礼料理の再現についての報告もあわせて行い、それぞれから見えてくる、浜通り、中通り、会津の食の歴史と現在についてもお伝えします。

リサーチはミュージアムの大事な機能の一つ。けれどミュージアムの専売特許でもありません。リサーチから見えてくる土地の豊かさ。そしてリサーチの醍醐味。ぜひ一緒に味わってください。

赤坂憲雄 Akasaka Norio

1953年、東京都生まれ。民俗学者。学習院大学教授。東北芸術工科大学教授、東北文化研究センター長、福島県立博物館長などを歴任。1999年『東北学』を創刊。2007年『岡本太郎の見た日本』でドゥマゴ文学賞受賞、2008年同書で芸術選奨文部科学大臣賞（評論等部門）受賞。2011年以降、東北の被災地を歩き民俗、文化、アートなどの文脈で震災の記憶の記録の重要性を発信している。著書に、『性食考』など多数。近年、奥会津でのリサーチを重ねている。

おススメ

企画展「昭和村の婚礼」

本ラウンドテーブルの会場「道の駅 からむし織の里しょうわ」内にある「からむし工芸博物館」では、報告②に関連する企画展「昭和村の婚礼」を開催中です。あわせてぜひご覧ください。（大人 300円、小中学生 150円）

主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会
協力：昭和村

問い合わせ・申込先
ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局
〒965-0807 会津若松市城東町 1-25（福島県立博物館内）
tel 0242-28-6000 E-mail general-museum@fcs.ed.jp

ポリフォニックミュージアムとは…

ライフミュージアムネットワーク実行委員会はこれまで培ってきたネットワークを基盤として、令和3年度より新たにポリフォニックミュージアムを立ち上げました。

これは ICOM 京都大会で提案された「過去と未来についての批判的な対話のための民主化を促す包摂的で様々な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）」を各地に創出するための福島県立博物館の試みでもあります。

今年度は各地域固有の歴史文化の再認識・再発見と、そこから立ち上がる課題への向き合い方の考察、その先にある未来像の創出を通して、ミュージアム的な場を多様に展開することにより、持続可能な地域社会への貢献を目指します。